

SBSグループ  
CSR報告書2010



# CONTENTS

トップメッセージ ————— 01

コーポレート・ガバナンス 03

法令遵守とリスク管理の徹底 …… 04

安全への取り組み 05

運輸安全マネジメントの強化 …… 06

車両の整備・管理体制の充実 …… 06

社員への安全教育の徹底 …… 07

環境とのかかわり 09

環境マネジメント …… 10

事業活動と環境影響 …… 11

車両の低公害化の推進 …… 12

共同配送による環境負荷低減 …… 13

環境に配慮した物流サービスの提供 …… 14

省エネ設備等の導入促進 …… 15

環境教育の促進 …… 16

社会とのかかわり 17

お客様とともに …… 18

従業員とともに …… 18

地域社会とともに …… 19

社会貢献活動 …… 20

SBSグループのCSR行動計画 ————— 21

SBSグループの概要 ————— 22

## 編集方針

本報告書は、株主、お客様、従業員、取引先などの各ステークホルダーの皆様へ、安全や環境などへのSBSグループの姿勢と取り組みについて、より理解を深めていただくために作成しました。また、わかりやすい表現を心がけ、簡潔・明瞭に説明しています。

### ■ 対象組織

SBSホールディングスならびに、グループ各社のうち事業規模の大きい23社の活動実績を対象としています。

### ■ 対象期間

2009年4月1日～2010年3月31日  
(一部対象期間外の活動も含みます)

### ■ 参考にしたガイドライン

「環境報告ガイドライン(2007年版)」(環境省)  
「サステナビリティ・レポート・ガイドライン2006」  
(Global Reporting Initiative)

### ■ その他の情報提供手段

本報告書は、SBSホールディングスのウェブサイトからもダウンロードできます。  
(<http://www.sbs-group.co.jp/>)

### ■ 発行年月

2010年12月

### ■ 次回発行

2011年秋を予定

### ■ 発行責任

SBSホールディングス株式会社  
IR・広報部 CSR・環境対策推進室  
TEL 03-3829-2240 FAX 03-3829-2822



## SBSグループ 経営理念

我々の提案するサービスによって、  
お客様に喜ばれ、株主に喜ばれ、  
そして社員の幸せにつながる会社を目指す。

企業の永遠の繁栄は、  
人を大事にすることにある。  
みなが生き生きと働くことが繁栄をもたらす。

社会的責任なくして企業の発展はあり得ない。  
社会と共に生き、人々に喜ばれ、  
広く内外社会の発展に貢献する。

# Top Message

## 自らの社会的役割の大きさを自覚し、 CSR経営を着実に推進します

私たちSBSグループは、輸送・保管・流通加工・情報システムなどの物流業務を一括して受託する3PL事業を中心に、その周辺業務も含めた総合的な企業間物流サービスを提供しています。物流は、あらゆる産業にかかわりを持ち経済活動に不可欠な社会インフラです。私たちは、物流という重要な機能を十分に認識し、自らが果たすべき役割の大きさをしっかりと自覚しなければなりません。

一方、グローバル化・情報化の進展、相次ぐ企業不祥事の発覚、資源枯渇・環境汚染による環境問題の深刻化などを背景として、企業に対する要望が多様化するとともに、企業に求められる責任の範囲も拡大しています。私たち企業には、ステークホルダー（株主、お客様、従業員、取引先など）との関係を重視し、社会との共生、発展を目指すCSR経営が求められております。

当社グループは、物流という社会とのかかわりの深い事業を行う中で、このような社会的責任の重要性を認識しCSR経営を着実に推進することで、豊かな社会の実現に貢献してまいります。私たちは、この姿

勢を『SBSグループ行動憲章』として制定し、グループの役員・従業員一人ひとりが守るべき行動基準としています。全員がこれを共有、自覚し、業務の中で日々実践できるよう努めてまいります。

2010年度は、内部統制システムが本稼働を迎えたほか、リスク対策などコーポレート・ガバナンスの充実に取り組みました。環境面では、燃費効率の向上と安全対策にも有効なエコ安全ドライブの推進に取り組み、リーダー160名を養成して現場定着を図りました。また、一人ひとりがエコキャップを回収する小さな活動が1年間でグループ全体へと波及し、資源の再利用と社会貢献に資することができました。

私たちは、「CSR経営とは、社会の期待に応え、社会の期待に背かないことである」と考えます。当社グループが持続的発展を図るには、皆様との豊かなコミュニケーションが不可欠です。2010年は昨年と同様の環境報告書から範囲を拡大し、CSR報告書としてご覧いただきます。皆様には私たちの活動に対するご意見やご感想をお寄せいただくとともに、今後もより一層のご指導を賜りますようお願い申し上げます。

2010年12月  
SBSグループ代表

鎌田正彦



# コーポレート・ガバナンス

## 社会から信頼される グループ経営に努めます

### コーポレート・ガバナンスの考え方

**S**BSグループは、純粋持株会社を中心に二十数社の事業会社で構成される企業集団としてグループ経営の推進が重要であると考えます。当社グループが社会から信頼を得て企業価値の継続的な向上を実現するためには、常にグループ全体の経営の効率性、健全性、透明性を確保しなければなりません。私たちは、『SBSグループ行動憲章』に則り「内部統制」「コンプライアンス」そして「リスク管理」を経営の重要な柱としてコーポレート・ガバナンス体制の構築を進めてまいります。

### SBSグループ行動憲章

#### SBSグループ経営理念

#### SBSグループ行動基準

1. コーポレート・ガバナンスの推進
2. お客様第一主義
3. 公正で透明性のある企業活動
4. 社会貢献と環境への配慮
5. 法令・規程の遵守
6. 働きがいのある職場づくり

#### SBSグループ企業倫理規程





## 法令遵守とリスク管理の徹底

### 内部統制体制の整備

～財務報告の透明性と信頼性を確保～

2006年5月の新会社法施行や2009年3月期からの内部統制報告書提出義務化など、近年、社会は企業の財務報告に一層の透明性・信頼性を求めています。

SBSグループは、これを業務の効率化、リスク対応力の強化、グループ経営の推進、ひいては企業価値の向上を図る好機と捉え、体制の整備を進めてきました。

今後も、経営を支える重要なインフラのひとつである内部統制の維持・向上を図ることで、「財務報告の透明性と信頼性」の確保に努め、多くのステークホルダーから継続して高い信頼をいただけるよう努めます。

### コンプライアンス委員会

～法令違反の監視と再発防止に向けて～

SBSグループは、『SBSグループ行動憲章』及び『SBSグループ企業倫理規程』を制定し、法令遵守に留まらず企業倫理にまで踏み込んだコンプライアンス体制の整備に取り組んでいます。

また、グループ代表を委員長とした「コンプライアンス委員会」を設置し、当社グループにおけるコンプライアンス体制の構築と維持、従業員への啓発活動を行っています。その他、内部通報窓口などによる法令違反の監視を行い、違反発生時には調査、改善の指示など再発防止の徹底にも努めています。

### 内部通報窓口

～企業としての自浄作用の確保のために～

SBSグループでは、社員やパート・アルバイトなど従業員を対象とする「内部通報窓口」を設けています。この窓口は職制への相談がためられる場合に、従業員が直接相談・通報できるもので、社外の弁護士事務所に設置しています。

また、相談・通報への対応は、プライバシー保護、不利益処分の禁止など相談者の保護が保証されています。当社グループは、この窓口を適正に運営することで、コンプライアンスに関する問題を早期に発見・解決し、企業としての自浄作用が有効に機能するよう努めています。

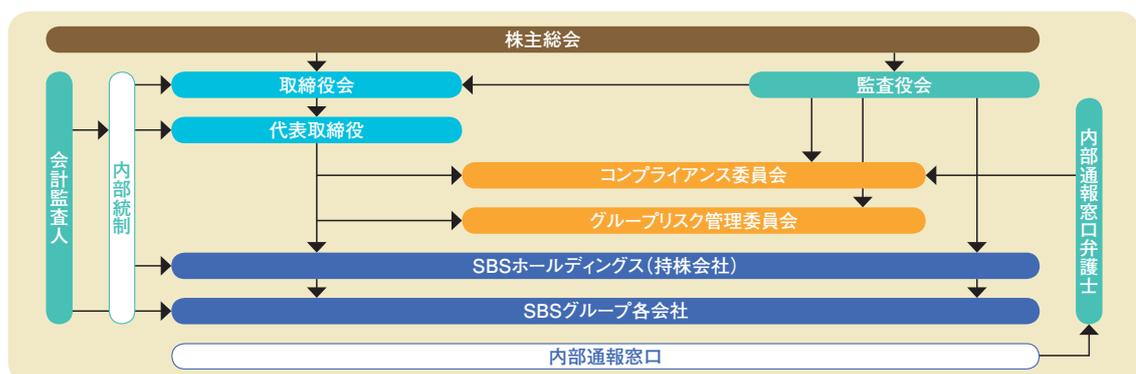
### グループリスク管理委員会

～リスク顕在化の未然防止に向けて～

SBSグループは、株主、お客様、地域の方々などステークホルダーの信頼を確保し、企業の社会的責任を果たすため、『SBSグループリスク管理規程』を制定し、経営活動の脅威となり得る全ての事象についてリスク管理の徹底を図っています。

リスク管理システムを維持、運営するため、グループ代表を委員長とする「リスク管理委員会」を設置。グループ各社・各部門は、年間計画に基づき重点リスクを洗い出し、対策を講じます。また、その進捗状況を同委員会でチェックすることでリスクの顕在化の防止に努めています。

## ■ コーポレート・ガバナンス体制 概要図



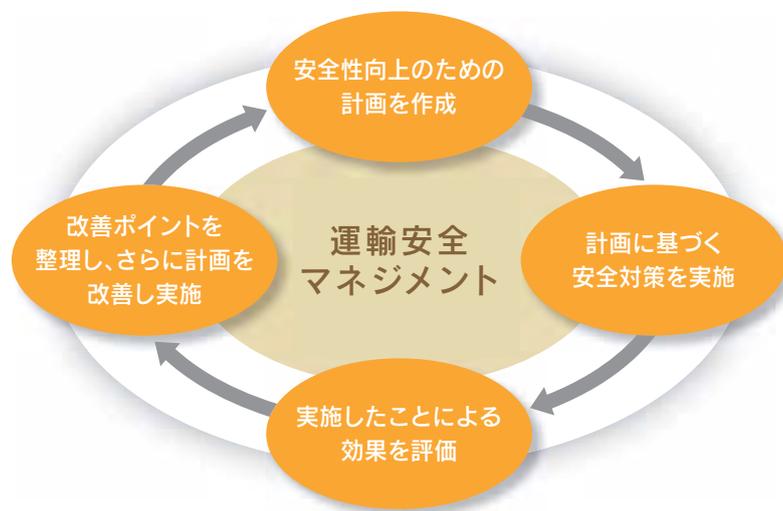


# 安全への取り組み

## 経営の最重要課題として 事故防止に取り組みます

### 安全に関する考え方

**物** 流事業を主力とするSBSグループは、「安全は全てに優先する」を経営の最重要課題の一つとして位置付け、グループ力を結集して事故防止に取り組んでいます。グループ各社が日々行う安全管理・運行管理はもちろんのこと、グループ横断組織による教育や指導によって3千人のドライバー一人ひとりに対して安全意識の浸透を図っています。「輸送の安全確保」「交通事故防止」は私たちの責務であり、その継続的な実現によるのみ、お客様そして社会からの信頼を獲得できるものと考えます。



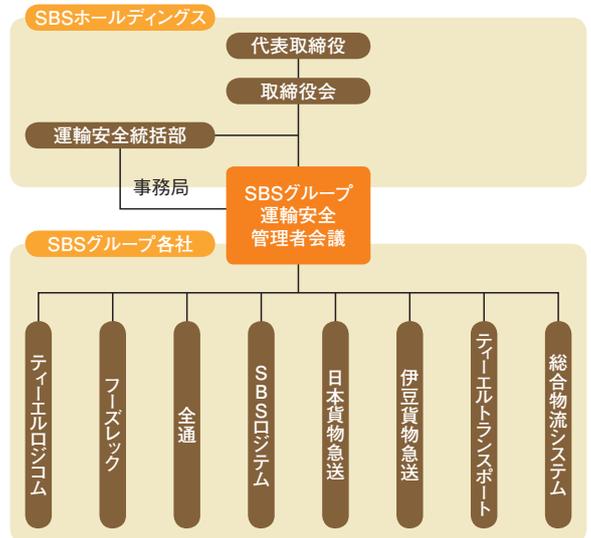


## 運輸安全マネジメントの強化

### 運輸安全統括部を設置 ～グループ横断組織で安全強化～

SBSグループでは、グループ横断組織として運輸安全統括部を設置しています。グループ全体の安全強化を目的に、各社の運輸安全管理者と連携しながら事故防止や運行管理のレベルアップに取り組んでいます。具体的には、近年頻繁に行われる法律や規制の改正をいち早く捉え、運輸安全管理者会議などを通じて遵守徹底を図ります。また、最新の法規制に対応する「運輸安全コンプライアンスセミナー」や省エネ・安全運転につながる「エコ安全ドライブ研修」などの教育も重要な活動です。グループ合同で開催することにより、効果的な研修を低コストで実施できるほか、交流の場としても貢献しています。一方、監査部と連携して現場を訪問し、直接運行管理の指導にあたります。

### SBSグループ運輸安全管理者会議 体制図



※上図には主な参加会社を記載しています。



## 車両の整備・管理体制の充実

### ドライブレコーダーの映像を活用 ～危険予知意識を高めるために～

ティーエルロジコムの全車両にはドライブレコーダーが装備されています。走行中に衝撃を受けたり、急ブレーキをかけるとその瞬間の映像が記録されます。子どもの飛び出しや急に曲がる車などの映像は改めて見てもヒヤリとします。同社町田支店ではそれを安全教材として活用。同僚の体験映像を見て、気をつけること、回避策などを議論し安全運転につなげています。また、緊張感を保つにもドライブレコーダーはとても役に立っています。



リアルな映像でヒヤリハットを共有します

### 日常点検の徹底で事故防止 ～定期的に実車による研修会を開催～

ティーエルロジコムは、営業用車両の点検・整備を徹底することで事故防止に取り組んでいます。特に故障の早期発見につながる日常点検は重要です。ドライバーは、出発前の短い時間に確実な点検作業をしなければなりません。このため定期的に実車を使った研修会を開催。ベテランも基本から点検作業を学ぶことで、自己流や手抜き作業の撲滅を図っています。ほんのわずかな点検で、事故は未然に防止することができます。



実車を使っでの点検講習、基本から学びます





## 社員への安全教育の徹底

### ヒヤリハット事例の積極的な活用 ～小さなことも見逃さない～

1件の大きな事故・災害の裏には、29件の軽微な事故・災害。その前にはヒヤリとしたりハットするような事例が300件あるとされています。SBSグループは、交通事故や労働災害を未然に防ぐために、前兆であるヒヤリハットの段階でいかに対策を打つかが重要だと考えています。

全通は、安全教育教材として『全通ヒヤリハット集』を刊行しました。全国の営業所から寄せられた約1,000件のヒヤリハット事例を165件にまとめ、A5版190ページに収録。朝礼やミーティング、研修会など様々な機会に活用しています。仲間のヒヤリ体験を貴重な財産として共有化し、掘り下げることで事故防止に日々取り組んでいます。

また、ティーエルロジコムでは、危険予知の能力を高めることを目的にヒヤリハット研修会を開催しています。運転事例に潜む危険を話し合い、「これは危ない」という事

項を洗い出します。そして対策を考え、行動目標を立て、一人ひとりが運転時に実践します。危険に対する意識を鋭くし、自分で自分の身を守る術を習得して、事故防止に努めています。



▲危険を発見! みんなで対策を考えます



◀全従業員に配付された『全通ヒヤリハット集』

### 運転適性診断の定期実施で事故防止へ ～インターネットによる診断システムを導入～

SBSグループは、トラック輸送の安全確保のためインターネット運転適性診断システム(ナスバネット)を本社に導入しています。ナスバネットはいつでも受診でき、所要時間は約80分。モニターに道路や車が映し出され、ハンドルやアクセルなどを使って模擬運転を行います。安全エコ運転度、予防安全運転度などの運転技能や心理的特性が点数表示されるほか、動体視力の測定など運転技能を総合的に判断できます。ドライバーに定期的を受診させることで各自の運転特性を本人と管理者の双方で把握。一人ひとりの特性に合った教育をすることで事故防止に努めています。



モニターを見ながら模擬ドライブで適性診断

### Gマークの取得で事故件数が減少 ～物流品質の安定にも貢献～

「安全性優良事業所(Gマーク)」は、トラック輸送の安全性に対して第三者による厳しい評価を受け、条件を満たした事業所だけが取得できます。フーズレックグループは、輸送事業を行う14事業所のうち10事業所でGマークの認定を取得しています。最も効果があったのは事故件数で、2年間で半減しました。Gマークによってドライバーの安全意識が向上した結果だと考えます。また、安全運転は、荷物に振動や加重が伝わりにくいことから物流品質の安定にも貢献しています。今後は、残る4事業所での取得を進め、安全・安心な物流サービスを提供してまいります。



「Gマーク」は、物流事業者の誇りです





## 社員への安全教育の徹底

### 運輸安全コンプライアンスセミナー開催 ～より安全な車両運行のために最新動向を学ぶ～

SBSグループは、営業車両の運行管理にかかわる法律や制度を学ぶ「運輸安全コンプライアンスセミナー」を開催しています。近年、事故防止や労働環境の改善を背景に法改正が頻繁に行われています。セミナーは、ドライバーの雇用から日常の出庫・帰庫時点呼、残業や健康の管理など多岐にわたる運行管理業務について最新の法令や行政動向を踏まえながら学ぶものです。2010年度は経営トップから現場の運行管理者まで約400名が受講しました。当社グループは、ハンドルを握るドライバーが安全に業務を遂行できる万全の運行管理を目指しています。



多くの経営陣が参加! 関心の高さが伺えます

### 優秀ドライバーの VOICE

#### 「無事故で帰る!」という強い思いが大切 ～30年無事故表彰～

私は、大手スーパーマーケット様の各店舗への配送を、朝6時から夕方3時まで担当しています。いつも、車間距離を取り、割り込まれても怒らず気持ちに余裕を持つこと、そして自分(車両)をバードビューで想像し、ポジションを確認して防衛運転を心がけています。また、会社の事故に対する厳しい指導もあったのが良い緊張感を生み、30年間無事故という結果につながったのだと思います。なにより、長い間無事に過ごせたのは、家族のもとに「無事故で帰るんだ!」という強い思いがあったからだと考えています。

ティーエルロジコム  
東扇島支店  
笛田 松治

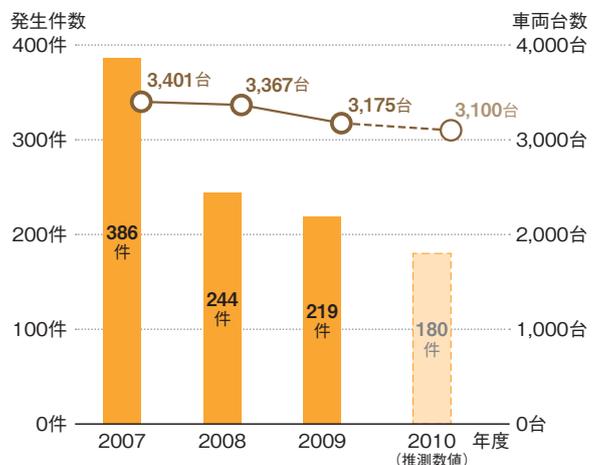


### 事故件数の推移

2007年度から2009年度にかけて事故件数は43.2%減少し、重大事故件数も3分の1と大幅減となりました。また、車両数に対する事故発生率は、2007年度の11.3%から2009年度は6.8%へと半減しました。

2010年度 SBSグループ安全スローガン  
急発進・急制動・急ハンドルの禁止!  
エコドライブで事故撲滅!!

### ■ SBSグループの事故件数と稼働車両数の推移



※2010年度の発生件数は、2010年10月末の件数から予測して算出



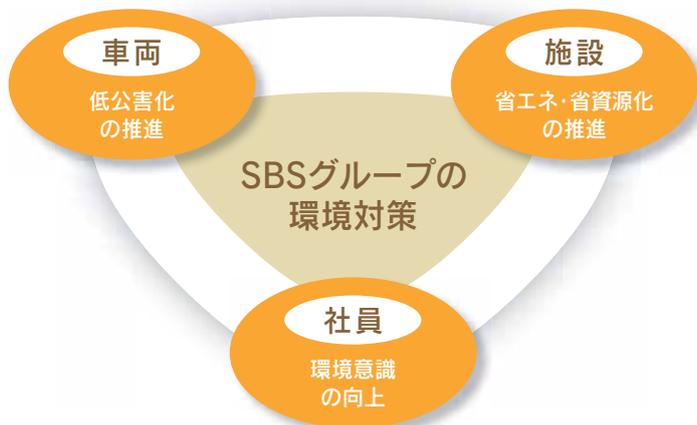
# 環境とのかかわり

## 持続可能な 社会の形成に貢献します

### 環境に関する考え方

**環**境問題がますます深刻化する中、企業活動における環境配慮は非常に重要な経営課題です。企業は経済的な価値を追求するだけでなく、環境保全に貢献していかなければなりません。私たちSBSグループは、環境保全に対する基本的な行動指針『SBSグループ環境方針』を策定し、これに則り計画を立案、実行しています。当社グループの主力事業である物流を中心に「車両」「施設」「社員」の3つの経営資源に着目して環境負荷の軽減に取り組み、持続可能な社会の形成に貢献してまいります。

### SBSグループの環境対策の3つの柱





## 環境マネジメント

### ■ SBSグループ環境方針

#### 基本理念

SBSグループは、環境問題が地球的規模を持つと共に、次世代以降においても重要な問題であるとの認識を堅持いたします。社会的責任を全うした健全な事業活動を通じ、経済と環境が両立する持続可能な循環型社会構築の一助となるよう努力いたします。

#### 基本方針

1. 資源・エネルギーの有限性を認識した上で、有効利用に努めてまいります。
2. 廃棄物の発生抑制・再利用・リサイクル及び適正処理を実施いたします。
3. 国内外の環境関連法規を遵守いたします。また、グループ各社は同意した協定等を遵守いたします。
4. 環境教育・啓発活動を通じて、全社員が本方針を周知徹底、実践いたします。
5. 直面した環境問題に対し、グループ各社の垣根なく、能動的かつ機動的に対応してまいります。

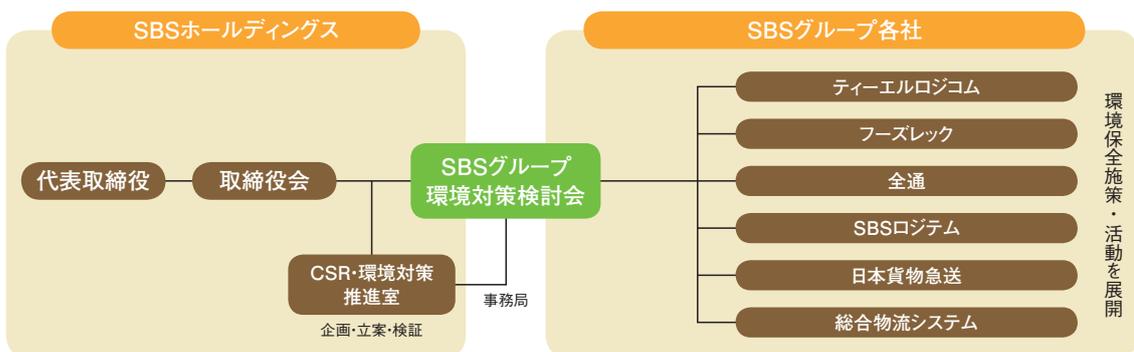
### 環境認証取得の状況

SBSグループでは、ISO14001、グリーン経営認証、エコステージなどの環境に関する外部認証を取得し、より効果的な環境保全活動に取り組んでいます。

認証	社名	取得事業所	
ISO14001	ティーエルロジコム	2支店及び1営業所	君津・戸田橋・新羽
	日本貨物急送	本社及び4支店6営業所	本社・羽生・横浜南・横浜中・日吉・厚木・小田原・静岡・仙台・盛岡・延清
	全通	本社及び4営業所	本社・浦和・大宮・船橋・東都
	総合物流システム	2事業所	横浜・東雲
グリーン経営認証	伊豆貨物急送	1営業所	富士
	中部レック	1営業所	名古屋
	ティーエルトランスポート	本社及び2営業所	本社・世田谷・東京引越センター
エコステージ1	ティーエルロジコム	2支店	新砂・京葉

### 環境推進体制

SBSグループでは、グループ各社で構成される「SBSグループ環境対策検討会」を定期的で開催し、持続可能な社会の形成に貢献すべく、グループ体となって環境保全施策や活動を展開しています。



※上図には主な参加会社を記載しています。





## 事業活動と環境影響

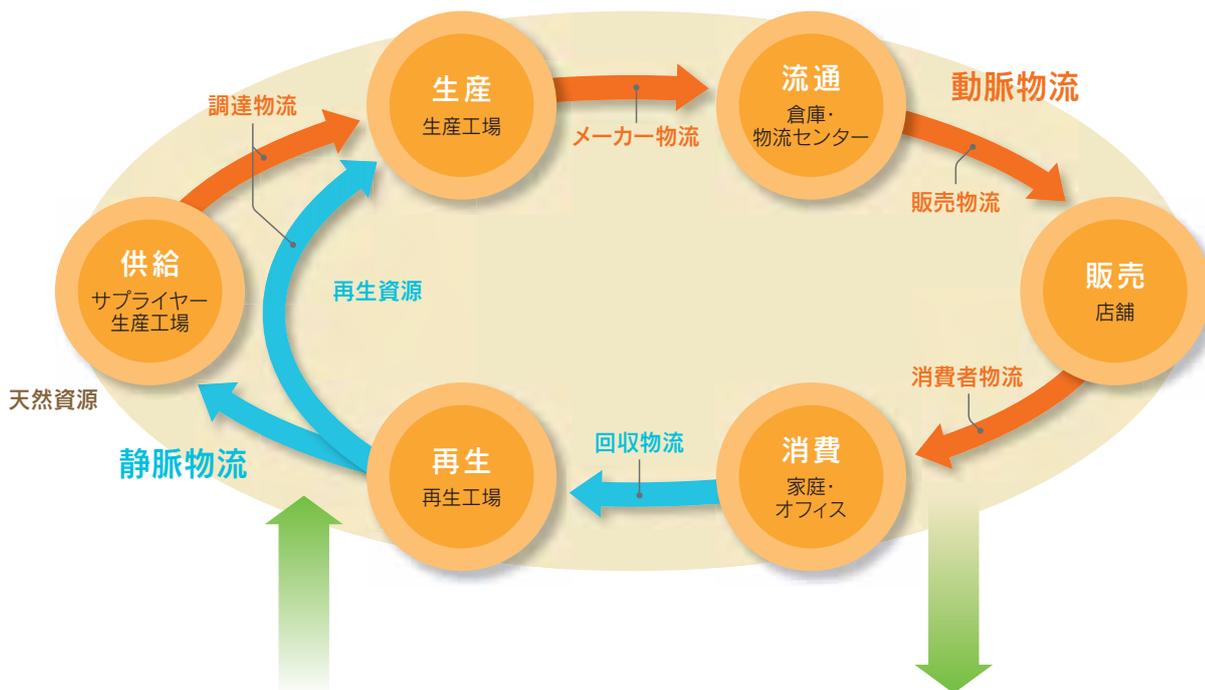
SBSグループの主力事業である物流は、資源の供給から生産、流通、販売、消費という機能を結ぶ重要な役割を担っています。従来この流れは一方方向でしたが、資源の枯渇や環境問題から廃棄物を再び原材料に戻す“循環型サプライチェーン”へと変化しています。私たちはこの全領域の物流プロセスを担っています。

### 温室効果ガスなどの排出状況

物流プロセスでは、主に「原材料や商品の輸送」や「物流施設の稼働」などで環境負荷が発生します。SBSグループでは、そのために使用するエネルギー（INPUT）と発生する温室効果ガスや廃棄物（OUTPUT）を捉え、環境負荷の削減と抑制に努めています。

2009年度は、車両の稼働にかかる温室効果ガスの排出状況に加え、物流施設などで使用する電気量の把握に取り組みました。CO<sub>2</sub>（二酸化炭素）は車両から、約7.3万トン、電気使用量から約1.2万トンの合計8.5万トンの排出量となりました。

### ■ 循環型サプライチェーンとSBSグループ



#### INPUT

使用エネルギー・タイヤ	2008年度	2009年度
軽油	24,646kl	25,200kl
ガソリン	937kl	900kl
LPG(液化天然ガス)	1,336km <sup>3</sup>	1,332km <sup>3</sup>
CNG(天然ガス)	430km <sup>3</sup>	425km <sup>3</sup>
タイヤ	12,209本	10,674本
電気量	—	30百万 kWh

※電気量は、2009年度より集計を開始  
※タイヤの2009年度の本数内訳(エコ: 418本、リトレッド: 132本、一般: 10,124本)

#### OUTPUT

温室効果ガス・廃棄物	2008年度	2009年度
車両からのCO <sub>2</sub> (二酸化炭素)	71,646t-CO <sub>2</sub>	73,108t-CO <sub>2</sub>
電気からのCO <sub>2</sub> (二酸化炭素)	—	11,775t-CO <sub>2</sub>
NO <sub>x</sub> (窒素酸化物)	470t	459t
PM(粒子状物質)	27t	24t
廃タイヤ	12,209本	9,114本

※電気からのCO<sub>2</sub>は、2009年度より集計を開始  
※上記のほか、2009年度は149本のタイヤをリトレッドタイヤ台座に活用





## 車両の低公害化の推進

### 低公害車の導入促進

～低公害車導入率は21%から25%へ～

SBSグループの2009年度保有トラック車両は約3,200台。輸送条件や用途を考慮しながら、環境負荷が比較的低い、低公害車両の導入を積極的に進めています。その結果、低公害車の導入台数は794台となり、全車両台数の25%を占めています。

#### ■ 低公害車の導入状況

	2008年度	2009年度
全車両台数	3,367台	3,175台
低公害車		
LPG車	523台	529台
CNG車	106台	108台
ハイブリッド車	13台	16台
尿素車(規制適合車)	64台	141台
<b>低公害車合計</b>	<b>706台</b>	<b>794台</b>
低公害車導入率	21%	25%

### リトレッド(再生)タイヤを本格的に導入開始

～1本当たり約41%のCO<sub>2</sub>を削減～

ティーエルロジコムは、リトレッドタイヤを2010年3月から本格的に導入を開始しました。2009年秋よりテストを行い、性能上問題ないと判断。リトレッドタイヤは、産業廃棄物処分としていた使用済タイヤの台座部分を再利用します。自社の使用済タイヤを提供することで、トラック用新品タイヤ1本当たりの製造資源量を100%とした場合、32%で再生できます。廃棄段階でのCO<sub>2</sub>は41%削減でき、省資源化と環境負荷の軽減とともにコスト削減が可能です。今後も、車体以外での低公害化を図り、積極的に環境負荷軽減に取り組んでまいります。



後輪にリトレッドタイヤを装着した車両

### キーチェーンによるアイドリングストップ

～降車時はキーを抜き、エンジン停止を徹底～

全通は、車両から排出される温室効果ガス削減の効果があるアイドリングストップを推進しています。2002年から全ドライバーが、腰ひもタイプのキーチェーンを装着しています。商品の積み降ろしや配達でトラックから離れる際、キーを必ず抜かなければならず、ドライバーは自然にアイドリングストップの習慣が身につきます。トラック1台が1日10分間の無駄なアイドリングを止めることで130ccの燃料を削減。同社の保有する約800台の車両で、年間約100トンのCO<sub>2</sub>削減につながります。ほんの数秒・数分の小さな積み重ねが大きな効果をもたらしています。



点呼時にキーチェーン装着確認! 出発準備完了

### 全車両にGPS機器を搭載

～無駄のない運行ルートで省燃費を推進～

北海道レックは、2007年、全車両にGPS運行管理システムを導入しました。このシステムは、全車両の運行状況をリアルタイムで把握でき、より効率的な運行管理体制を実現できます。走行履歴のほか、荷室内温度・作業状況・走行速度などを管理端末にグラフで表示。渋滞や天候など道路状況に変化があった場合は、最適な走行ルートも選択が可能です。また、走行データをもとに、ドライバーに対しエコドライブを指導するなど、燃費向上に貢献しています。今後も効率的で省エネ運行ができるよう、データ分析等をさらに進めてまいります。



運行状況が一目瞭然、効率的なルートを選択





## 共同配送による環境負荷低減

### 大手製鉄工場内共同配送 ～納品先400カ所をわずか4台で効率的に配送～

ティーエルロジコム君津支店は、大手製鉄メーカー様工場内向けに商社、機械メーカーなど数百社にのぼる取引先の商材の共同配送を行っています。工場内は東京ドーム220個分の広大な面積を有しており、納品先は400カ所。仮に、取引先各社が単独で納品した場合は1日で数十台の車両が稼働、非常に効率の悪い配送となります。そこで各社の荷物を一旦同支店に集約して、納品先毎にまとめて配送を行います。現在は、わずか車両4台で納品に対応しています。多くの車両を削減できるこの取り組みは、車両排出ガスを抑制でき環境にやさしい配送となっています。



納品先を確認、効率よく配送できるように積載

### 鮮度にこだわる海産物の共同配送 ～物流効率化で環境負荷低減～

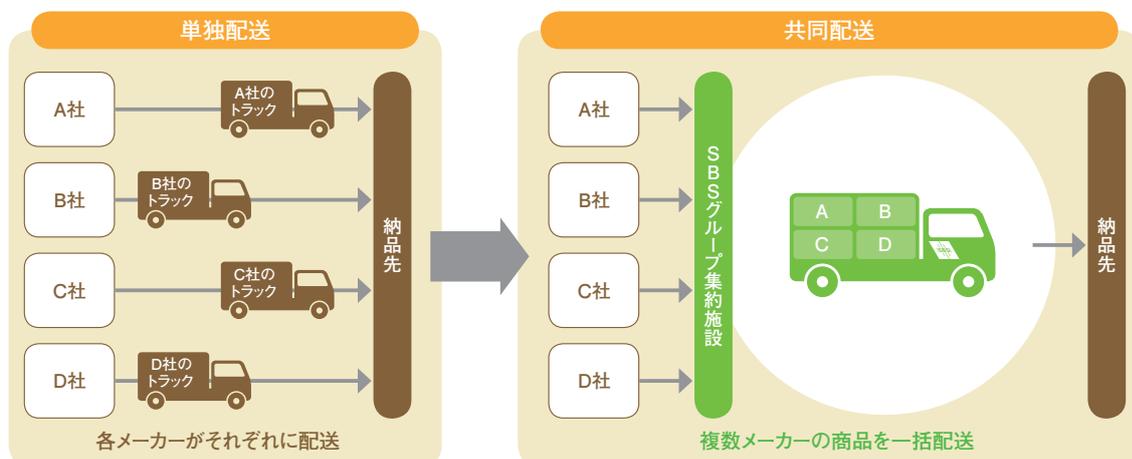
日本貨物急送の釜石営業所では、地元の食品卸やメーカーなどが首都圏に出荷する海産物の共同配送を行っています。海産物の共同配送は、低コストなどのメリットがある一方で荷物の集約や積み替えによる品質劣化や輸送の遅延などが懸念されていました。そのため、集約施設には一般冷凍に加えマイナス35度以上の低温冷凍設備を導入。輸送は同社の長距離路線ノウハウで定時運行体制を構築、十数社から賛同を得ることができました。この結果、物流コストが軽減されたほか、走行車両台数・走行距離が減ることで環境負荷低減につながっています。



低温冷凍庫を備えた日本貨物急送釜石営業所

## 共同配送の仕組み

共同配送とは、個別の配送を行ってきた複数の企業が荷物を集約して配送する仕組みです。配送車両の削減ができ、積載効率の向上や環境保全の効果が期待できます。

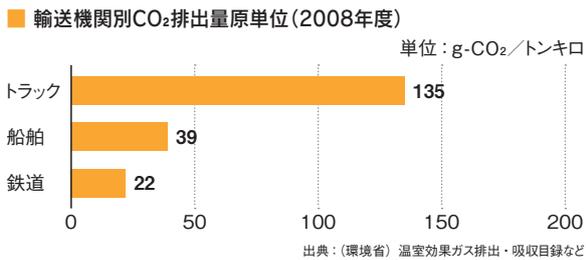




## 環境に配慮した物流サービスの提供

### モーダルシフトの推進に力を入れています

モーダルシフトは、中・長距離輸送のうちトラックが行う幹線部分を鉄道や船にシフトする輸送方式です。鉄道や船はトラックに比べてエネルギー効率が高くCO<sub>2</sub>排出量を削減することができます。ティーエルロジコム通運営業部では、長距離輸送のお客様に対して地球温暖化や大気汚染防止、省エネルギーなどの改善策として鉄道輸送の利用を提案しています。2009年度のモーダルシフトによる取扱量は前年度比104%となり、その成果を上げています。所要時間の短縮や天災・事故時の振替輸送体制の充実など改善すべき課題はありますが、さらに取り組みを進めていきます。



▲コンテナを貨物ターミナルに運び鉄道に載せ替えます



▲特殊コンテナを採用、利便性を追求しています

### TOPIC

## 大規模施設の館内物流システムを提供

～配送効率化で車両の排出ガス削減と省電力に貢献～

ティーエルロジコムは、大規模施設向け館内物流システムを提供しています。大型ビルや複合商業施設では大量の宅配物や小口貨物を集荷・納品する車両が頻繁に出入りし、周辺での交通渋滞やエレベーター混雑が発生しています。そこで、施設に出入りする荷物を一カ所に集約し館内へ共同集配するシステムで解決を図りました。納品先に直接届けられないため荷受作業は1回5分程度で終了。これによりトラックの待機渋滞がなくなり車両排出ガスが削減されます。荷物の集約でエレベーター使用回数も大幅に減少し、電力を約80%削減できるなど省エネにも貢献しています。加えて、ドライバーなどの不特定者が館内に入りにくいことからセキュリティが高まるという副次効果も生まれています。



▲各テナント様へ一括して商品をお届けします

◀システムを導入された、渋谷マークシティ様





## 省エネ設備等の導入促進

### 省エネ照明設備の導入

～省ライン蛍光管を導入し、電気消費量35%削減～

全通本社ビルでは、省電力対策として環境配慮型製品「省ライン蛍光管」を導入しました。この蛍光管は、従来の蛍光灯に比べて製品寿命が長く、電気消費量が少ない割に高照度が得られます。既存照明からの交換も、安定器と蛍光管だけで済み、廃棄物削減にも貢献しています。導入後は、従来の照明設備に比べオフィスが明るくなり、電気消費量も35%削減されました。環境負荷低減とともに、社員の作業環境も向上しています。今後も労働環境に配慮した省エネ、省電力化を積極的に展開したいと考えています。



高効率な照明により、明るくなった事務所

### 屋上緑化は優れた環境対策です

～省エネ効果に加えて熱環境の改善や空気の浄化も～

ティーエルトランスポートは、東京世田谷の本社ビル屋上の120㎡を緑化しています。真夏の屋上タイルの表面温度は日中50度以上に達します。そこに植物を植えることによって、緑化した下面温度は1年を通して30度以下に保たれ、屋内の温度上昇を抑えることができます。また、植物の蒸散作用によってヒートアイランド現象などの熱環境改善や空気の浄化効果も得られます。さらに屋上外壁の劣化を防止するなど建物の耐久性の向上にも役立っています。身近な環境の改善効果から経済的な効果まで、屋上緑化は優れた環境対策です。



社員の手入れで、緑がいっぱいの屋上

## TOPIC

### 循環型社会形成を担う環境事業を展開

～廃棄物を再び原材料へ、再資源化への挑戦～

総合物流システムは、SBSグループで唯一資源リサイクル工場を有する会社です。首都圏において一般廃棄物及び産業廃棄物の収集、運搬から資源への再生処理までを行っています。廃棄物は同社のリサイクル工場で分別し再生処理を行い再び原材料として蘇らせます。再生できなかったものは電力に変えたり、セメントの原料などにし極力埋め立て処分を行いません。限りある資源を有効に活用するには、廃棄物からできるだけ多くの原材料やエネルギーを取り出し資源の循環を図ることが大切です。

日本では年間約4億トンもの廃棄物が排出されます。同社が年間に取り扱う廃棄物量はわずか1万6千トンですが、そのうち約70%を再資源化しています。知恵や工夫によって廃棄物をゼロにすることが私たちの目標です。



◀パッカー車  
など専用車を  
多数所有



◀資源  
リサイクル工場





## 環境教育の促進

### 社員への環境教育プログラムを実践 ～環境に配慮した働き方を目指して～

SBSグループでは、社員向けに2つの環境教育に取り組んでいます。一つは、環境報告書を題材に環境を学ぶ「環境報告書を読む会」、もう一つは、新人や新任管理者向けの階層別研修内で行う「環境研修」です。

「環境報告書を読む会」は、グループの環境保全に対する考え方、具体的な事例、環境負荷の実態、今後の取り組みや目標などを理解することが目的です。少人数で開催しみんなで環境について話し合うことを重視しています。2010年は11回開催、135名が参加しました。

一方の「環境研修」は、新入社員研修の中で実施しました。教室で環境問題やグループの環境対応について学んだほか、当社グループの総合物流システムが運営する資源リサイクル工場を見学。廃棄物が資源に再生されていく工程をつぶさに見て、これから配属される職場での3R\*1

活動がいかに重要かを肌で感じられたと思います。当社グループは、社員誰もが環境に配慮した働き方を実践するようこれからも教育に努めてまいります。

\*1 3R: Reduce(削減)、Reuse(再利用)、Recycle(再資源化)

▼わかりやすくグループの環境対策を説明



▲スーツ姿も初々しい新入社員環境研修

### 環境にやさしいエコドライブを推進 ～現場定着に向けてリーダー育成中～

エコドライブは、ゆっくり発進や速度を一定に保つなどで燃費を改善する環境にやさしくかつ安全な運転方法です。毎日3,000台の車が運行するSBSグループでは、エコドライブで大きな効果が期待されます。しかし、誰もが共感するものの、全員が毎日励行するのは簡単ではありません。そこで私たちは「エコ安全ドライブレADER研修」を開催し、推進リーダーを養成。現場でのエコドライブ定着を目指しています。2年間で250名を育成しましたが、まだまだ不十分です。今後もリーダーを育成しながら環境にやさしいエコドライブの定着を図ってまいります。



リーダーとしての決意を新たにした参加者

### eco検定合格者の VOICE

#### 無理なく楽しくエコ生活

eco検定を受験するまで、温暖化やオゾン層破壊などの地球環境問題に対し、自分一人では仕方がないと思っていました。しかし、環境問題は非常に幅広く、また日常生活と密接な関係を持っていることを学びました。無理なく、強制されることなく、普段の生活の中で自然に、自分にできることを楽しみながら実践できれば、環境問題の歯止めになると考えています。私生活では、ペランダに緑のカーテンを作り、そしておいしく食べられるゴーヤを育てたり、同年代の人たちとのボランティア活動に参加したり、無理なく楽しく取り組んでいます。

関西流通システム  
管理部  
山本 悠里名





# 社会とのかかわり

## 社会との より良い調和を図ります

### 社会に関する考え方

**S**BSグループは、持続可能な発展のために、株主をはじめ、お客様、従業員、取引先、地域社会などのステークホルダーとの健全な関係の維持・発展に努めています。たとえば、均等な雇用機会の提供、従業員が悩みを相談できる窓口の設置、災害時の支援活動、地域でのボランティア活動、住民との交流、お客様の期待に応える高品質なサービスの提供……。SBSグループは、社会を構成する一員として、ステークホルダーとの相互理解の促進や貢献活動に努め、社会とのより良い調和を図ってまいります。



## お客様とともに

### お客様の信頼に応える物流品質の提供 ～ISO9001を43事業所で認証取得～

私たちの大切なお客様は、安定した物流品質を求めています。フーズレックグループでは、ISO9001品質マネジメントシステムの認証取得を推進。庫内作業を行う事業所を中心に43カ所で認証を取得しています。ISO9001は、業務を標準化することで品質を安定させ誰もがわかりやすく作業できる仕組みです。当社は、業務標準に基づいた確実な作業を行い、お客様へ高い品質の物流を提供し信頼に添えてまいりたいと考えています。



品質向上への挑戦は限りなく続きます

### 改善活動で顧客満足度を向上 ～時にはお客様と一緒に取り組みます～

SBSグループは、2006年から物流現場の改善活動を強化しています。改善は日常作業の問題点の発見から始まります。「なぜ、なぜ」を繰り返し、問題の真因を追究。対策を打ち、効果を検証します。これを継続して仕事の効率や品質を高めていきます。通常の改善範囲は仕事の手順、作業動線、要員配置などですが、必要とあれば前工程や後工程に改善領域を拡げます。たとえば、各メーカーから届く商品を在庫管理し、お客様であるスーパーに出庫する倉庫作業。物量が増え商品が倉庫に入りません。そこで荷動きを分析し、影響が大きい商品を特定して発注量や発注時間の改善をお客様やメーカーに提案。前工程の改善で根本解決ができました。時には自分たちの領域を超えてお客様と一緒に改善することが、顧客満足度の向上につながっていると思います。

## 従業員とともに

### グループ統一研修で教育を充実 ～シナジー効果の発揮にも貢献～

教育研修は「会社の求める人材育成」と「社員の自己実現」の調和が重要です。SBSグループでは「必要とされる人材に、必要なときに必要な研修を」を目指し2009年度よりグループ統一研修を開始しました。従前より少ない費用で研修の充実が図れるほか、研修という共通体験を通じてグループ内交流が生まれ、仕事の幅や品質の向上につながるなどシナジー効果の発揮も見られます。今後も経営や社会の要請に応える研修を進めてまいります。



3PL研修の成果発表を前に作戦会議

### 職場何でも相談室を設置 ～職務上の悩み、気軽に相談～

人は、何か心配なこと、気がかりなことがあると、物事に集中できません。一人で悩まずに、一緒に考える。「職場何でも相談室」は、SBSグループ従業員の仕事や職場に関連した悩みを、何でも気軽に相談できる窓口として2008年に発足しました。現在は、女性相談員も配置して体制を拡充。相談は、面談だけでなく、PCメール・携帯電話・携帯メールなど多様な方法が選択できます。もちろん秘密は厳守されます。



グループ各社で掲示されている案内ポスター



## 地域社会とともに

### トラックの森づくりに参加しました

SBSグループでは、2009年度に続き群馬県トラック協会主催の「トラックの森づくり」に参加しました。今回は、グループから7名が参加。爽やかな秋空のもと、植樹や下草刈りなどを行いました。この作業は、環境保護とともに地域社会への貢献としても意義ある活動です。今後はもっと多くの社員が参加できるようにしたいと考えています。

▼下草刈りに集中する参加者



▲使い慣れない大鎌での作業、疲れます…!

### 足尾の山で植樹活動を行いました

株式会社ばむは、設立10周年の記念事業として、栃木県にある足尾の山で植樹を行いました。社会のために何か役立ちたいという社員の想いを実現。同社の事業は、会社案内やパンフレットなどの印刷物を制作、大量の紙を使用します。紙の原料となる木々への感謝の気持ちを込めて社員一人ひとりが、苗木を1本ずつ植えました。

▼早く育つよう、心を込めて植樹をしました



▲無事に植樹終了、爽やかな笑顔で記念撮影

### 地域の方々との交流を大切にしています

ウイングトランスポートの社は住宅街の中にあります。毎日トラックが入り出る物流拠点では、近隣にお住まいの方々のご理解があるから事業が行えると認識しております。地域の一員としてできることを考えた結果、休日には会議室を開放し、自治会の交流の場として活用していただいています。いつも地域の方々とふれあう機会を大切にしたいと思います。

▼住宅地に隣接する本社建物



▲開放施設で卓球を楽しむ地域の皆さん

### 清掃や環境美化で地域貢献しています

日本貨物急送小田原支店は、地元の神奈川県南足柄市と環境保全に関する協定を結び、環境にかかわる様々な貢献活動を行っています。たとえば、南足柄市の東に位置する要定川周辺の環境整備や清掃を行ってきました。同社は、地域社会の一員であることを自覚し、積極的に地域貢献に取り組んでいます。

▼要定川の堤防に環境保全看板を設置



▲堤防道路を全従業員で清掃



## 社会貢献活動

### 災害時も迅速に配送対応 ～緊急支援物資を最優先で配送～

フーズレックグループの東北ウイング岩沼物流センターは、宮城県の災害発生時の救援物資拠出登録社である「みやぎ生活協同組合」様とお取引をいただいています。配送を担う同社は、その指定物流事業者となっています。2010年2月に発生したチリ大地震による大津波警報発令の際、緊急支援物資の配送要請を受けました。70km以上離れている石巻市の避難住民の方々へ約2千食のおにぎりやカップラーメンなどを5時間後にはお届け。その迅速な対応が評価され表彰を受けました。今後も地域社会のインフラとしての責任を自覚し、災害時には迅速に対応してまいります。



みやぎ生活協同組合様からの感謝状

### エコキャップを集めてワクチンを送ろう！ ～一人の想いがグループ全体の活動へ～

SBSグループでは、2009年秋からエコキャップの回収運動を続けています。きっかけは、一人の社員の「エコキャップを集めてワクチンを送ろう！」からでした。最初はキャップがそのまま捨てられる、回収箱にゴミが入っているなど認知されません。数人の賛同者が周りに呼びかける、啓発ポスターの掲示、会議や研修会でお願いするなど地道な努力で少しずつ回収量が増えました。その結果、1年間で17万個を回収。220人の子もたちにワクチンを送ることができました。この運動は社会貢献のひとつとしてグループ全体にさらに広がりつつあります。



1週間で回収されたキャップ、約3,000個!

### 障がいのある方々の雇用創出へ ～特別支援学校生を採用～

ティーエルトランスポートは、障がいのある方々の雇用を積極的に行っています。2009年度採用した3名の特別支援学校生には、在学中に合計4週間の現場実習を行いました。現場では、障がいに応じて作業内容を工夫、商品ピッキングや仕分けなどを行います。各々に専属の教育担当を配し、コミュニケーションを取りながら、社会人として一歩を踏み出す学生の不安を取り除くことを重点的に指導します。また、実習日誌を通して、先生や家庭と連絡を密に取ることも大切です。これからも障がい者の雇用創出への継続的な取り組みを行ってまいります。



商品ピッキングでは、慎重にコード番号を確認!

### 担当者の VOICE

#### 1頭でも多くの盲導犬が育ちますように

SBSロジテムは、盲導犬の育成に取り組む日本盲導犬協会へ寄付を行っています。日本では、約8千人の方々が盲導犬を必要とされていますが、盲導犬は約千頭しかいません。映画『盲導犬クイールの一生』でも紹介されましたが、年間の育成数はわずか50頭です。盲導犬を育てるには多くの時間と費用がかかります。私たちは、1頭でも多くの盲導犬が育つようにこの活動を始めました。社員一人ひとりの思いが目の不自由な方々のお役に立てればと思っています。

SBSロジテム  
管理部  
久保山 徹



# SBSグループのCSR行動計画

## 2010年度環境行動計画と進捗状況

2010年度は、車両、施設、社員の3つの視点から環境保全対策に取り組み、CO<sub>2</sub>排出量の削減を目指してまいりました。2010年度の目標に対する進捗状況をご報告いたします。

	重点課題	2010年度の目標	取り組みの進捗状況(2010年10月末現在)	
環境対策	車両	低公害化	CNG車など25台の導入 エコタイヤ・リトレッドタイヤの採用拡大	CNG車2台・LPG車8台・ハイブリッド車3台 合計13台導入 エコタイヤ327本・リトレッドタイヤ393本を導入
		効率化	総合配車の対象拡大と強化 エコドライブの推進などにより前年比燃費5%改善	各社支店間で、空車情報を提供するなど取り組みを拡大 エコ安全推進チームを結成し、普及活動中
	施設	省エネ化	電力使用量把握と削減計画立案 省エネ照明への切替促進	月次で集計を開始 省ライン蛍光灯 241本導入
		省資源化	廃棄物量把握と削減計画立案 3R活動の立ち上げ	月次で集計を開始 各社において3R活動実施
	社員	環境教育	120名のエコドライブ推進リーダー育成 階層別研修時に環境教育を実施	160名のエコドライブ推進リーダー育成 環境報告書を読む会 11回開催 135名参加 / 新入社員環境研修実施
		環境啓発	グループ報に環境記事掲載 環境報告書の発行	グループ報の冬・春号に環境記事を掲載 CSR報告書として2010年末発行予定
環境行動		エコキャップ運動などの活動支援 植林や清掃活動への参加促進	エコキャップ回収数 17万個 日光市足尾で植樹実施及び群馬トラックの森づくり事業に参加など	

## 2011年度CSR行動計画

2011年度は、これまでの「環境行動計画」に安全面と社会面の項目を加え、「CSR行動計画」として新たに目標を設定し、その達成に向けた取り組みを行います。

	重点課題	2011年度の目標		重点課題	2011年度の目標	
環境対策	CO <sub>2</sub> 全体排出量	3,000t-CO <sub>2</sub> 削減	安全対策	重大事故ゼロ	重大事故・重大災害ゼロ	
	車両	低公害化		CNG車など新規に17台導入 エコタイヤ・リトレッドタイヤの採用拡大	事故削減率	2010年度比 20%削減
		効率化	エコドライブの推進などにより前年比燃費4%改善	教育研修	安全実務セミナーの開催 免許・資格取得支援研修	
	施設	省エネ化	使用エネルギーの1%削減 省エネ照明への切替促進	社会とのかわり	お客様	グリーン物流の提案(モーダルシフト化) 品質向上の取り組み強化
		省資源化	廃棄物量削減計画の立案		従業員	グループ統一研修の充実 健康管理の充実
	社員	環境教育	150名のエコドライブ推進リーダー育成 環境教育の実施		社会貢献	エコキャップ運動や地域清掃活動などの活動支援 植林や森づくり事業への参加促進
		環境啓発	グループ環境Newsの発行			

## 環境アクションプラン2013

環境対策については、2009年度CO<sub>2</sub>排出量を基準として2011年度から2013年度までの3カ年で、8,500t-CO<sub>2</sub>を削減する「環境アクションプラン2013」を作成、取り組みを進めてまいります。

CO<sub>2</sub>全体排出量の削減目標  
2009年度比 **8,500** t-CO<sub>2</sub> 削減(10%減)

重点施策	数値目標	CO <sub>2</sub> 削減量
エコドライブの徹底	年3.6%燃費改善	7,700 t-CO <sub>2</sub>
CNG車の導入	新規に39台導入	400 t-CO <sub>2</sub>
施設での使用エネルギー量削減	年1%以上の削減	400 t-CO <sub>2</sub>

# SBSグループの概要

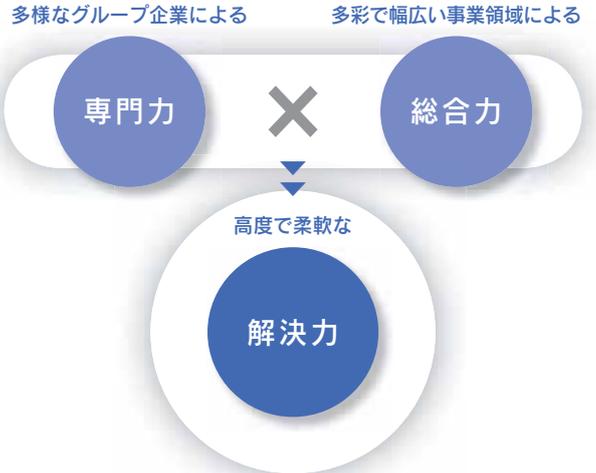
## SBSグループの事業構成

輸送・保管・流通加工などの企業間物流事業と、その周辺業務である物流支援事業で構成されます。

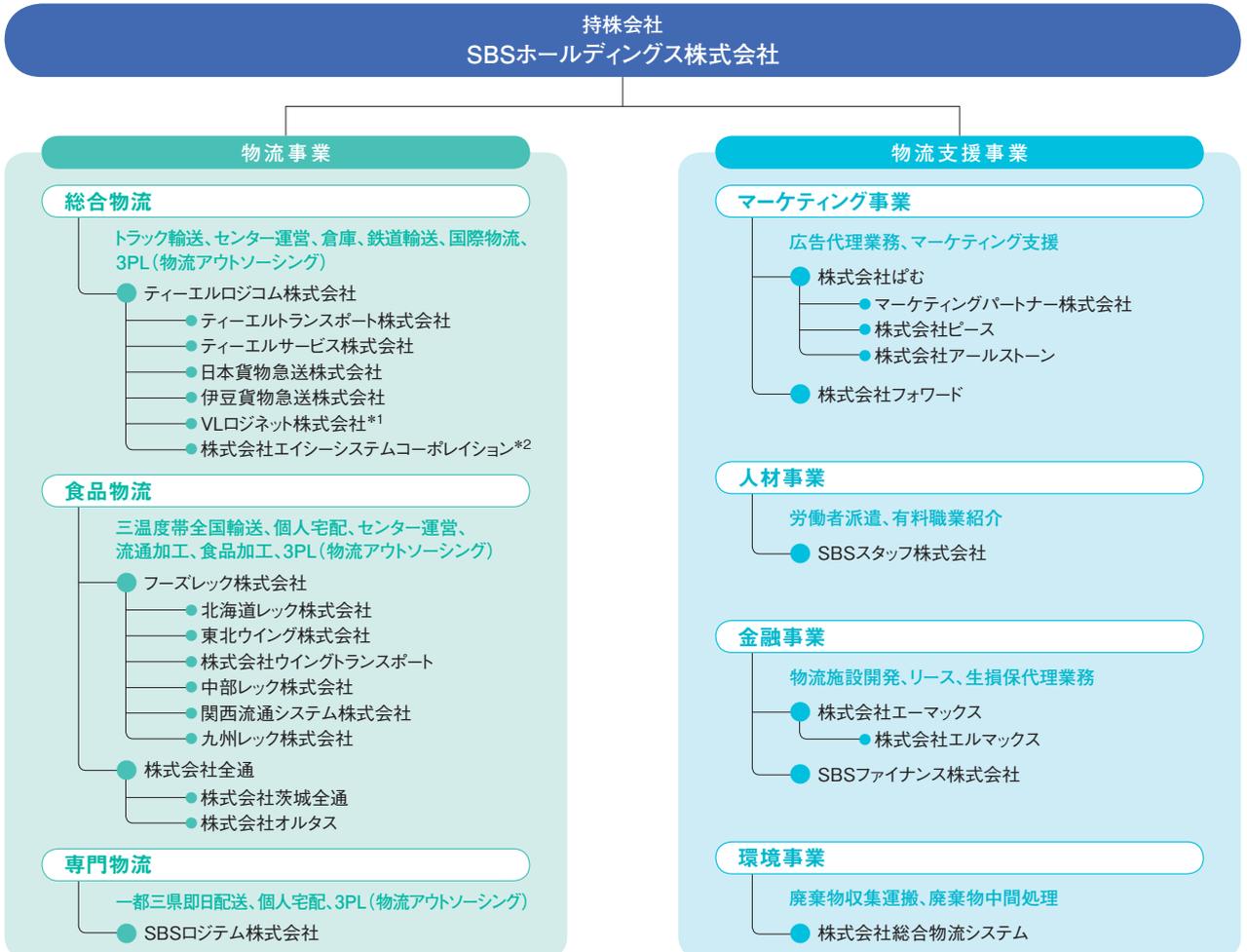


## SBSグループの強み

多種多様な企業群から構成されるSBSグループは、お客様の物流課題に最適なソリューションを提供します。



## SBSグループの主要企業



\*1 2010年4月よりグループ化 \*2 2010年7月よりグループ化

## 会社概要

商号 SBSホールディングス株式会社  
代表者 鎌田 正彦  
所在地 〒130-0012 東京都墨田区太平4-1-3  
設立 1987年12月16日  
上場 大阪証券取引所 JASDAQ市場 (2384)  
資本金 38億3,393万円  
売上高 1,157億円 (連結)  
従業員 11,509名 (うち正社員4,151名、連結)  
連結会社 連結子会社26社 関連会社1社

※資本金、売上高、従業員、連結会社は、2009年12月末現在。

## 問い合わせ先

〒130-0012 東京都墨田区太平4-1-3  
SBSホールディングス株式会社  
IR・広報部 CSR・環境対策推進室  
TEL 03-3829-2240 FAX 03-3829-2822  
ウェブサイト <http://www.sbs-group.co.jp/>



2010-12-01-80

